令和５年度　第３回学校運営協議会　議事録

１　日時：　令和６年２月５日（月）１４時３０分～１６時００分
２　会場：　大阪府立三国丘高等学校　校長室
３　出席者：
［委員］　田中滿公子会長、仲林信至副会長、井上博史委員（欠席）、河野泰之委員、
平松勝己委員（欠席）、吉岡哲郎委員

［学校側］　藤井光正校長、福本美紀教頭、中島泰志事務部長、
（田中和代首席：欠席）、吉田憲司首席、
大塚雅之教諭、宮根隆教諭、北川晃士教諭、（尾崎勇魚教諭：欠席）、
中屋江里子教諭、田中洋平教諭、本田悠教諭、コンシビド ネリッサ教諭

４　次第
①　校長挨拶
②　議事
（１）令和５年度学校評価について（報告）
【委員】人権関係が△評価なのはなぜか？
【学校】人権ＨＲよりアンケート時期のほうが早かった、という要因もある。問題行動についての指導などを通しても、人権教育は行っている。
【委員】人権・環境・福祉について学習する機会は人権ＨＲに限定せずもっと広くとらえてもよいのではないか。ＣＳ（探究学習）などもあてはまる。
【学校】アンケートの質問自体がアバウトな部分もあり、答えにくかったのかもしれない。指摘いただいたことも含めて、教育活動のあり方について検討してゆく。
【委員】目標は常に素晴らしいが、高校でこれだけ取り組んでも大学では指示待ちになる学生が多い。これはなぜか。高校３年間での経験が生徒のその後の人生にどう影響しているのか。
【委員】みな「出る杭」になれない。コンフリクトを起こさないがイノベーションも起こさない。自分で突き破る気質が欲しい。
【学校】もめごとは起こさないように、というのは世間の風潮である。
【委員】大人がそうだから、というのはあるが、それでは日本の将来は、じり貧である。
【学校】本校の３年生も仲良しだが、確かに委員ご指摘の意味合いで言う尖った生徒は少ない。
【委員】若者がそういう様子では海外と比べての日本の相対的ポジションの低下を止められない。
【委員】小学校の教科書を見ると、至れり尽くせり。そういう教科書で学んだ子どもが三国丘にも入学する。個人的な意見だが、丁寧に教えすぎないほうがよいのではないかと思っている。
【委員】もっと基礎の力を詰め込むべきではないか。基本もないのに考えさせるのは無理ではないか。小学校の授業が丁寧なのは、子どもがわからない、という前提。中学校ではもう少し問いかけを工夫する。子どもは正解を求める。指導者の模範解答を想定して答えようとする。そのあたりが気になる。主権者教育の面でも、社会を変えて行く経験をさせたい。当事者意識を高めることが必要だが、進学希望者が多い学校でもあるので、教科指導と主権者教育の両立はどのように行っているか？中学校でも受験指導に偏りがちである。
【学校】高校でも受験指導は視野に入る。しかしただ単に詰め込んでどうにかなる時代でもない。探究活動などを通して自分で問う態度を身につける、という理想はある。本日のＣＳ発表をみて

も、それなりの成果はあがっていると思う。

（２）学校教育自己診断結果について（報告）
【委員】素晴らしい結果。他の高校と比べてどうか。
【学校】以前校長を務めた学校と比べても、ここまで高い数値はなかった。
【委員】高校同士での情報のやりとりは行っているか。
【学校】学校教育自己診断の結果は各校ともウェブサイトに公開している。

（３）Ｒ６経営計画について（提案）
【委員】あまり数値にとらわれすぎるとやりたいことがぶれそう。数値にとらわれすぎないように。
→Ｒ５評価、Ｒ６計画とも承認

（４）定時制Ｒ５評価（提案）
→Ｒ５評価、Ｒ６計画とも承認

（５）各学年の状況（報告）
【委員】私は中学校の校長だが、主体性についての考えを聞きたい。
【学校】提出課題以外の自習時間が減っているのではないかと危惧している。
【委員】宿題以外に自習をするのが普通か。
【学校】そのように考えている。もう少し細かく調べないとはっきり言えないが、肌感覚としても現状として自習時間は少ない。
【委員】ナンバースクール的な放任、つまり生徒各自に委ねるスタイルなのか。それとも細かく課題を出すのか。
【学校】バランスよく、様子見ながら、というふうに考えている。
【学校】以前と比べると提出物をきちんとやる、という雰囲気がある。
【学校】過去の本校はどうだったのか。
【委員】自分は三国丘高校の卒業生だが、やはり勉強させられた。課題に必死で、自習はなかったように記憶している。

（６）スーパーサイエンスハイスクール今年度取組（報告）
（７）スーパーグローバルハイスクール今年度の取組（報告）
【委員】SGH について。男女比はどうか。
【学校】一年生は男子４：女子６である。
【委員】例年そうした傾向か。
【学校】昨年度はほぼ全員が女子だった。昨年度よりは男子が多い。
【委員】SSH の男女比はどうか。
【学校】男女７：３くらいである。

（８）進路状況（報告）
【委員】受験大学を決めるのは本人か、親か。
【学校】面談をするが、本人が考え、家でも相談し、担任との面談を経て決定する。
【委員】浪人したくないという意向は本人のものか。
【学校】文系クラスの担任だが、共通テストリサーチを経て、守りに入る傾向がある。生徒はよく頑張

ってくれるが、生徒が苦しんでいる様子を見て保護者は浪人を勧めづらくなっているのではないかと推測している。親の一言や、家庭の雰囲気も判断に影響していると思われる。来年度は新カリキュラム化に伴う変更も多いため、今年度の浪人への抵抗は強くなったかもしれない。

【委員】女子の浪人回避はジェンダーバイアス的なものか。

【学校】文系では本人のメンタルも、もたないというケースが多い。

【学校】理系でも同様である。

【委員】攻めに出ないのは日本社会沈滞の原因ではないか。

（９）その他

【委員】すごい学校だと思う。学校教育自己診断の結果を見ると、SSH の取組も、自己診断の授業に関する項目も結果が高い。

【委員】生徒への管理を強める必要もあるかもしれないが、自主自立の三国丘マインドとどうバランスをとっているのかが気になった。卒業式の歌はどう選んだのか。

【学校】卒業式の歌については生徒の卒業式委員が選定した。

【委員】指導の方法については、場面によってトップダウン的に、場面によっては自由に。生徒によっても適切な指導は異なる。教員には見極めの技量が求められる。

校長挨拶、散会